



地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所(環農水研)
担当：食と農の研究部 葡萄グループ 上森
TEL：072-979-7035 FAX:072-956-9691

プレスリリース

令和3年5月13日 14:00

府政記者会 会員各位
河南記者クラブ 会員各位
大阪科学・大学記者クラブ 会員各位

高い精度でデラウェアのジベレリン処理適期を予測できる
新しい方法を開発しました！

種なしブドウでお馴染みのデラウェアは、大阪府のブドウ生産の8割を占める代表品種です。

デラウェアの種なし化のためには、植物ホルモンの一種であるジベレリンを処理することが必要で、最適な時期を逃すと種が入ってしまいます。この最適な時期を判断する指標として、「展葉枚数（新しい枝の葉の数）が10枚に到達した日」を用いています。

環農水研では、1987年から現在までデラウェアの展葉枚数を調査し、その年のジベレリン処理適期の予測を発表しています。この予測は、生産者の皆様の栽培管理計画に役立てられています。従来は、これまでの測定結果を基に「展葉枚数は一定速度で増加する（3日で約1枚増加する）」と仮定して予測してきました。

このたび、この展葉枚数の予測精度の向上のため、気温を基に予測する手法を、約30年間蓄積してきた展葉枚数データから開発しました¹⁾。この新手法により、従来法よりも予測精度が向上することを確認しています（次ページ図参照）。環農水研では、今後、この新手法を活用して、これまでより早い時期から精度の高いジベレリン処理適期情報を発信していきます。



デラウェアの展葉の様子
(写真の展葉枚数は2枚)



ジベレリン処理の様子



デラウェアの果実

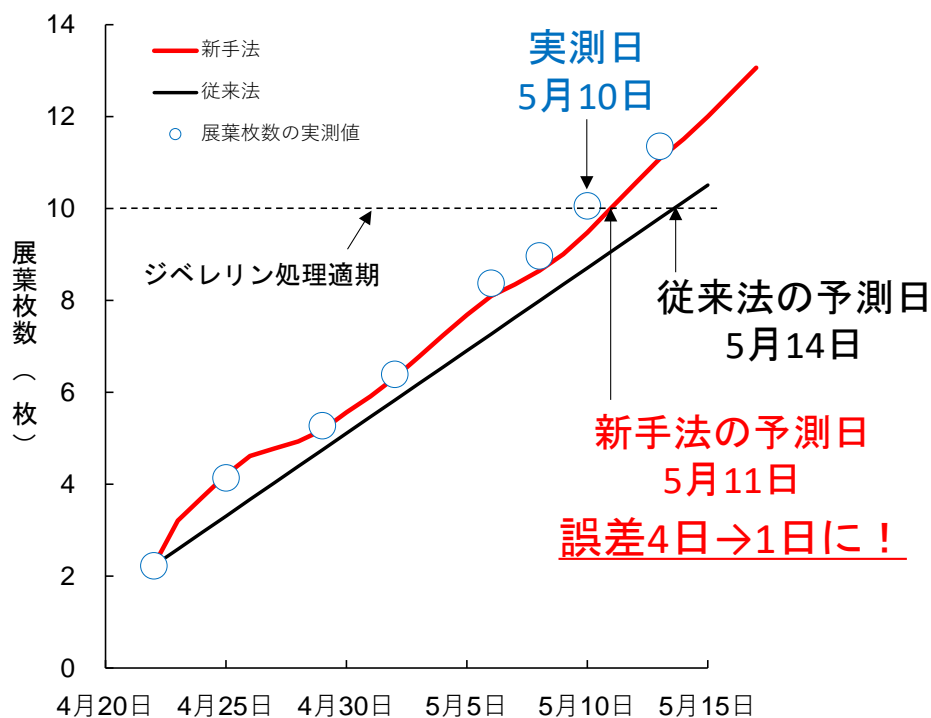


図1 2019年4月22日時点における新手法と従来法の予測結果の比較

赤い線は新手法による展葉枚数の予測結果、黒い線は従来法による展葉枚数の予測結果、青い○は展葉枚数の実測値を示しています。

従来法では、「展葉枚数は一定速度で増加する」と仮定しているため、傾きが一定の直線となります。一方、新手法では日々の気温を反映しているため、展葉枚数の実測値をよく予測できており、早い時期からジベレリン処理適期を把握できました。

実際に新手法を用いる際は、「メッシュ農業気象データ²⁾」が提供する気温予報値（当日から26日先までの予報値）を活用します。

1) Kamimori et al., 2021. *The Horticulture Journal* **90**:181-189

2) 大野宏之ら. 2016. 生物と気象 16 : 71-79